



現場から（最近のニュースから）

何が事実か



2月は、受験シーズンです。1月に大学入学共通テストもありましたが、どんな問題が出たのか新聞などで見ることもできます。そこで、気づく人もいるでしょうが、現代の受験生の日本史の問題と答えは、大人の世代が知っているものとは違うのです。それについて、専門家が「教科書から消えた」日本史の常識を解説している記事がありました。変わったポイントだけを書きます。

<古墳>日本最大の古墳は「仁徳天皇陵」ではなく「大仙陵古墳」

<古墳>「大和朝廷」ではなく「ヤマト政権」などに

<飛鳥>聖徳太子の肖像画は偽物。呼び方は「厩戸王」が主流に

<飛鳥>蘇我入鹿が暗殺された事件は「大化の改新」ではなく「乙巳の変」に。「大化の改新」は「事件以降の政治改革」を指すように

<飛鳥>日本最古の貨幣は「和同開珎」ではなく「富本銭」だけど、鎌倉時代まで日本では中国銭が主流だった

<鎌倉>鎌倉幕府の誕生は「1192年」ではない。最有力は「1185年」

<鎌倉>『徒然草』の作者は「吉田兼好」ではなく「兼好法師」

<鎌倉>元寇の勝因は“神風”一台風ではなかった。勝因は元軍の「不協和音」と「幕府の武力」

<室町>足利尊氏の肖像画「騎馬武者像」は偽物だった

<戦国時代>戦国時代のスタートは、「応仁の乱」ではなく「享徳の乱」

<戦国時代>織田信長が掲げた「天下布武」は「室町幕府の再興」のスローガンだった

<江戸>キリシタン発見の手法は「踏絵」ではなく「絵踏」

<江戸>「出島」以外にも「対馬」「松前」「薩摩」などで貿易をおこなっていた

<江戸>士農工商ほど厳しい身分の区別はなかった

(2月17日 Flash<大人が知らない日本史の新常識>より)

この記事のコメントに、歴史はどんどん新しい説が出て来て楽しいと書いている人がいました。リアルタイムではない後世の記録が基になっていて、その中には伝記のように伝わって来ているものもあるので、これからも調査でどんどんアップデートされるだろうということです。歴史専門家から見ると、それが、楽しみの一とつだということです。

過去に起こった事実は1つだけです。それを後から見て、それぞれの人が、それぞれの観点で記述しているのを研究するので、いろいろなことが出て来るのは当然だということでしょうか。歴史の勉強なら、そういうこともあると学び直していけば良いのですが、実際の人間の歴史とその流れを研究して、それがいまにどのように影響を与えているのかを見ようとするなら、起きた事実を正確に見る必要はあるでしょう。しかし、どれくらい正確に見ることができるのでしょうか。

歴史的なことではなくて、社会的にも個人的にも、「過去にこうだった」ということで今を生きようとする場合があります。ただし、起こった事実は1つでも、見る観点によって、人によって受けることは違い、時間が経つにつれて変わるということは忘れてはなりません。あなたが常識だと思っていたり、傷ついたり思っていることも、違う観点から見ると違うこともあるのです。別の観点から、その中にある真実と事実をいっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください